

オーガニックビレッジの取組事例①

浜田市農業再生協議会（島根県浜田市）

背景・課題

浜田市は、農地の大半が中山間地に位置する水田であり、農業経営の多くが零細な水稻経営となっている。近年、米の買取価格低迷や米農家の高齢化が進む中で、従来のままの米づくりでは経営の継続、地域農業の維持が厳しくなることが予想される。

成果目標と達成状況

- 有機米の面積拡大
(R3: 6ha ⇒ R4実績: 7ha ⇒ R9: 13ha)
- 有機米の販売数量の増加
(R3: 18,000kg ⇒ R4実績: 8,000kg ⇒ R9: 30,000kg)
- 有機米の農業者数の増加
(R3: 2人 ⇒ R4実績: 2人 ⇒ R9: 7人(経営体))

取組の成果

- ①調達：地域内の野菜残渣と地元漁港で水揚げされた未利用魚等による堆肥の製造及び成分分析を行った。
- ②生産：有機にんじんの機械化一貫体系の実証により作業の省力化が図られた。アイガモロボによる水田抑草技術を用いた実証を通じ、実装に向けた課題が明確となった。
- ③加工・流通：有機露地野菜の実証で生産した野菜を用いて県外の加工施設へ出荷し、収益性を検証した。
- ④消費：市内の小中学校を中心に、有機JAS認証が取得できない期間の農産物を使った給食を提供し、子どもたちの食育や環境意識の醸成を図った。



浜田市

構 成 員

浜田市、浜田市農業委員会、
島根県農業協同組合いわみ中央地区本部、
旧農地利用集積円滑化団体、
島根県農業共済組合、
浜田地方農業士会、
集落営農組織

品 目

水稻、野菜



堆肥の製造
(コンポストへ野菜の
端材を投入する様子)



有機にんじん機械化一貫体系(収穫作業)



出荷方法について
指導を受ける生産者



給食の様子(イメージ)

普及に向けた取組

有機米においては、課題となっている雑草対策を企業や研究機関等と連携して進め、生産拡大を図る。また、有機野菜においては、県外の加工施設までの輸送コストがボトルネックになっていることから、地元企業との連携による市内での加工・流通体制の検討を進める。

オーガニックビレッジの取組事例②

神石高原有機農業推進協議会（広島県神石郡神石高原町）

背景・課題

神石高原町では高齢化が著しく、後継者の育成や地域の農地を守ることが難しく、今後、耕作放棄地のさらなる増加が懸念されている。

このような中、当協議会においては安心安全農作物の供給に取り組んでおり、消費者の環境にやさしい農業への関心を深めることや新規就農者の育成を図る。

成果目標と達成状況

- 有機農業の面積拡大
(R3: 7.6ha ⇒ R4実績: 8.3ha ⇒ R9: 20.2ha)
うち水稻の面積拡大
(R3: 4.16ha ⇒ R4実績: 4.87ha ⇒ R9: 14.16ha)
- 有機農産物の販売量増加
(R3: 16t ⇒ R4実績: 57t ⇒ R9: 32t)
- 有機農業者の増加
(R3: 6人 ⇒ R4実績: 7人 ⇒ R9: 11人)

取組の成果

- 調達・生産: 「土づくりマニュアル」作成に向け、地域の未利用資源である落葉・竹チップによる堆肥の製造、並びに土壌分析を実施した。
- 加工・流通: 広島市内へ農産物を出荷するため「やさいバス(株)」と協議を実施し、広島市内への販路拡大に繋げた。
- 消費: 生物多様性調査を実施し、調査結果を記したシールを農産物に貼付し、購入者にアンケートを行い、シールの有無と普段の有機産品の購入状況について調査した。



調査圃場に散布するため、
落葉・竹チップを使用した
堆肥づくり

土壌分析を実施し、
次期作に向けた土壌改良を実施



新しい販路先を開拓するため、
「やさいバス(株)」との協議

生物多様性調査結果の
シールを貼付し、購入
者にアンケート調査を
実施



普及に向けた取組

「土づくりマニュアル」を作成し、広く生産者に周知するとともに、新たな販売先や販売方法を確保することにより、有機栽培に取り組む就農者の増加に繋げる。



神石高原町

構 成 員

神石高原町、
MOA自然農法神石普及会、
カタツムリの会、農業者

品 目

水稻、野菜

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

- **みどりの食料システム戦略**に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用低減、バイオ炭の施用、水田の水管理などの栽培情報を用い、定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示します。
- 米については、**生物多様性保全**の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施します。



温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域又は県の標準的栽培での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等) - 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上
★★ : 削減貢献率10%以上
★★★ : 削減貢献率20%以上



※上記の商標は商標出願中です

対象品目：23品目 米、トマト、キュウリ、ミニトマト、ナス、ほうれん草、白ネギ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、みかん、ぶどう、日本なし、もも、いちご、茶

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

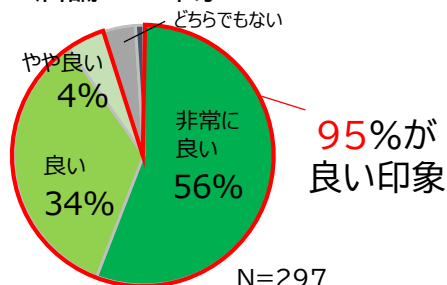
化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延長または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★ : 取組の得点1点
★★ : 取組の得点2点
★★★ : 取組の得点3点以上

消費者へのわかりやすい表示

(令和4年度・令和5年度 実証より)

店舗への印象



全国のべ700か所以上で販売
(令和6年2月末時点)

「見える化」の広がり(実証の事例)

モスバーガー (広島県)

- ・有機物主体の肥料の活用と減農薬栽培を行うレタス生産者（（株）鈴生）からモスバーガーに働きかけがあり、実証が実現。
- ・広島県内全店舗（32店舗）で「見える化」レタスを使用した商品を販売。（令和5年10月23日時点）
- ・温室効果ガス削減率 ★

SARA (岡山県)

- ・従前より木質バイオマス発電所を併設した循環型の施設運営に取り組む農園。発電所からの蒸気・電気・燃焼ガスを活用して大規模にミニトマトを生産（年間出荷量 1,600ト見込み）。
 - ・温室効果ガス削減率 ★★★★★
- 【信濃屋六本木ヒルズ店】



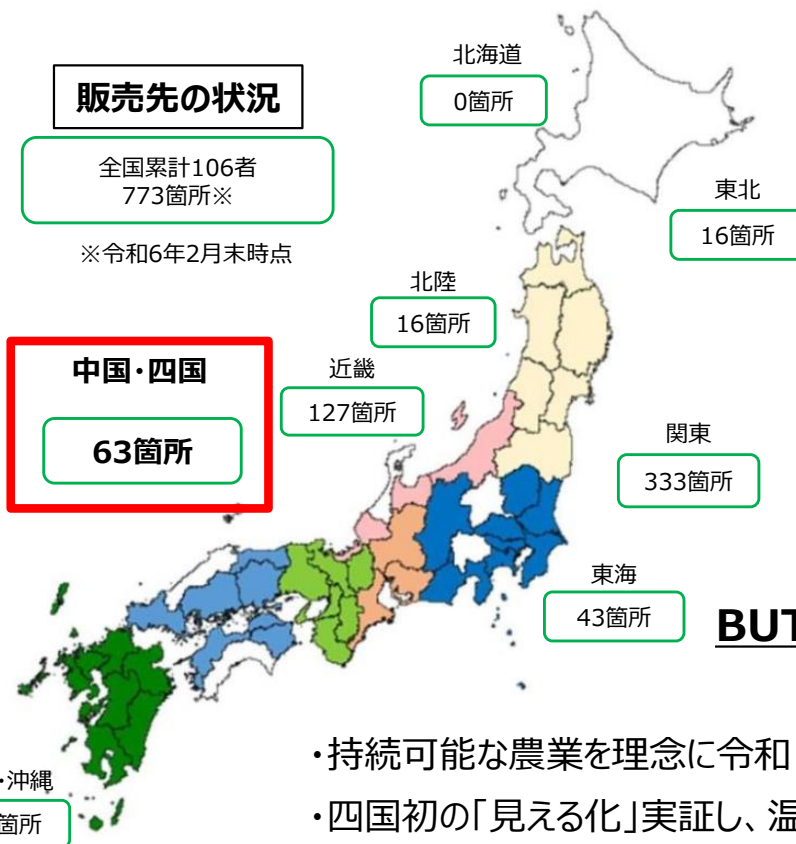
販売先の状況

全国累計106者
773箇所※

※令和6年2月末時点

中国・四国

63箇所



グリーンファーム沖美 (広島県)

- ・「追加の費用がかかったが、よい広報になると思ったので、自社のシールに「見える化」ラベルを組み込んだ。」との声。
 - ・温室効果ガス削減率 ★★★★★
- 【フレスタ中筋店（広島市）】



BUTTOBI BERRY ORGANIC (徳島県)

- ・持続可能な農業を理念に令和3年から有機いちごを商品化。
- ・四国初の「見える化」実証し、温室効果ガス削減率 ★★★★★



～私たちにできること～

エシカル消費

エシカルとは“倫理”という意味で、私たち一人一人が、人や社会・環境に配慮した製品を選ぶことで、世界が抱えている問題を解決する一助になります。

環境への配慮

- ・エコ商品を選ぶ
- ・マイバッグを使う
- ・省エネの車・電球にする
- ・マイボトルを使う



地域への配慮

- ・地元の産品を買う
- ・被災地で作られた物
- ・伝統工芸品を買う
- など、地域を応援する



- ・買いだめ・買占めをしない
- ・必要なものを必要な分だけ購入する
- 周囲のことを考えて思いやりを持った消費行動を心がける

社会への配慮

- ・フェアトレード認証商品
- ・売上金が寄付される物
- ・障害者支援になる物を選ぶ

人への配慮

食品ロスの削減

まだ食べられるのに、捨てられてしまう食べ物を「食品ロス」といい、環境に負荷をかけています。



食べ残し



期限切れ

- ・買いだめをしない
- ・買い物時は手前から取りましょう



運搬・焼却時にCO₂を排出



過剰除去



- ・本来食べられる部分の大幅カットをしない。



ブロッコリーの芯やニンジンの皮も柔らかくゆでると食べられる→

有機食品を選ぶ

～有機食品とは～

農薬や化学肥料に頼らず、家畜の糞尿・敷きわら・堆肥など動植物質の肥料を用い、環境への負荷をできる限り減らして作られたもの



有機農産物とそれを原料とした加工食品に付けられます。



食材そのものだけでなく、加工品も多く売られています♪



消費者の方に分かりやすい表示方法について、実証を行っています。



削減率5%以上で★1つ、
削減率10%以上で★2つ、
削減率20%以上で★3つ
を付与（令和4年実証）



環境負荷低減の「見える化」ラベル

地産地消を実践する

地産地消とは

国内の地域で生産された農林水産物を、その生産された地域内において消費する取組のこと。

鮮度や
栄養価が高い！

近くで採れるため
新鮮でより安価

環境に優しい！

農産物・食品の輸送
距離を短縮すること
で温室効果ガスの
排出を抑えます。

地域で生産された 農林水産物を選びましょう



ニッポンフードシフト、あふの環2030プロジェクトでは、次の世代も豊かに暮らせる未来を創るために、日本の「食」のあり方を考え、食料や農林水産業に係る持続的な生産消費の達成を社会全体で進めています。